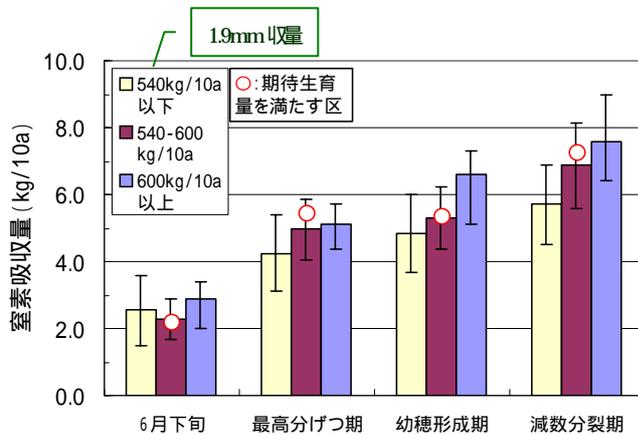


水稲品種「どんぴしゃり」の栄養診断基準

水稲品種「どんぴしゃり」は、「あきたこまち」や「ひとめぼれ」より穂数・籾数がやや確保しにくい品種です。幼穂形成期追肥で栄養状態の充実をはかり、確実に籾数を確保することが安定した収量を得るポイントです。

【1 栄養診断基準】

診断時期 項目	6月下旬 (分けつ期)	7月上旬 (最高分けつ期)	幼穂形成期	減数分裂期
窒素吸収量(g/m ²)	1.5 ~ 3.5	4.3 ~ 6.0	4.4 ~ 7.2	5.4 ~ 8.7
窒素濃度(%)	2.5 ~ 3.2	1.5 ~ 2.6	1.4 ~ 2.3	1.3 ~ 1.8
乾物重(g/m ²)	50 ~ 110	140 ~ 290	250 ~ 390	410 ~ 590



幼穂形成期に窒素栄養不足にしないことが、籾数確保に大切なポイントだよ。



図・各生育ステージの収量階層別窒素吸収量 (H15-18)

【2 栄養診断結果と追肥対応】

幼穂形成期における生育量(草丈, 茎数)と葉色値から以下の基準を参考にして追肥を行いましょう。

SPAD 葉色値* (葉位:n-2)	草丈(cm) × 茎数(本/m ²) × 葉色値*
38 ~ 43	1.0 ~ 1.6 (×10 ⁶)

*葉緑素計 SPAD-502
(ニカミル社製)を使用。

項目	< 1.0	1.0 ~ 1.6	1.6 <
診断内容	生育量が不足。籾数不足し収量の確保が難しい。	十分な生育量が確保されている。	籾数が過剰となり白未熟粒発生が心配される。
追肥時期	幼穂形成期		
追肥判断	N成分2kg/10a程度が必須。積極的に籾数増加を図る。	N成分2kg/10a程度の実施により籾数の安定確保を図る。	玄米品質を低下させないよう追肥量を減らす(N成分1kg/10a程度)。

茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉色値(SPAD)	
		38	43
350	55	0.73	0.83
	60	0.80	0.90
	65	0.86	0.98
400	60	0.91	1.03
	65	0.99	1.12
	70	1.06	1.20
450	60	1.03	1.16
	65	1.11	1.26
	70	1.20	1.35
500	60	1.14	1.29
	65	1.24	1.40
	70	1.33	1.51
550	60	1.25	1.42
	65	1.36	1.54
	70	1.46	1.66
600	60	1.37	1.55
	65	1.48	1.68
	70	1.60	1.81